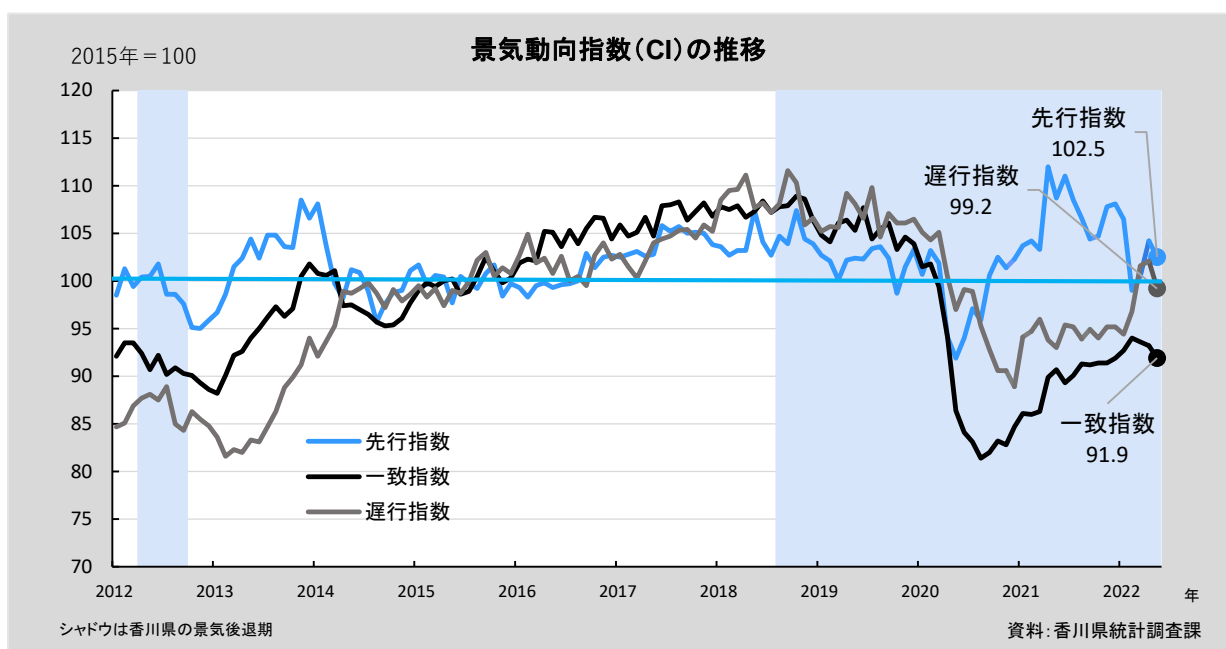


概況	景気は、一部に供給制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している。
個人消費	緩やかに持ち直している。
住宅投資	弱含んでいる。
公共投資	減少している。
生産活動	横ばいで推移している。
雇用情勢	緩やかに持ち直している。
貿易	輸出、輸入ともに増加している。
観光	持ち直している。

景気動向指数(かがわCI) 一致指数 3カ月連続下降



景気の現状をみると、5月のCI一致指数は91.9（前月比▲1.3ポイント）と3カ月連続で下降。CI先行指数は102.5（同▲1.7ポイント）と3カ月ぶりに下降。CI遅行指数は99.2（同▲2.9ポイント）と4カ月ぶりに下降。

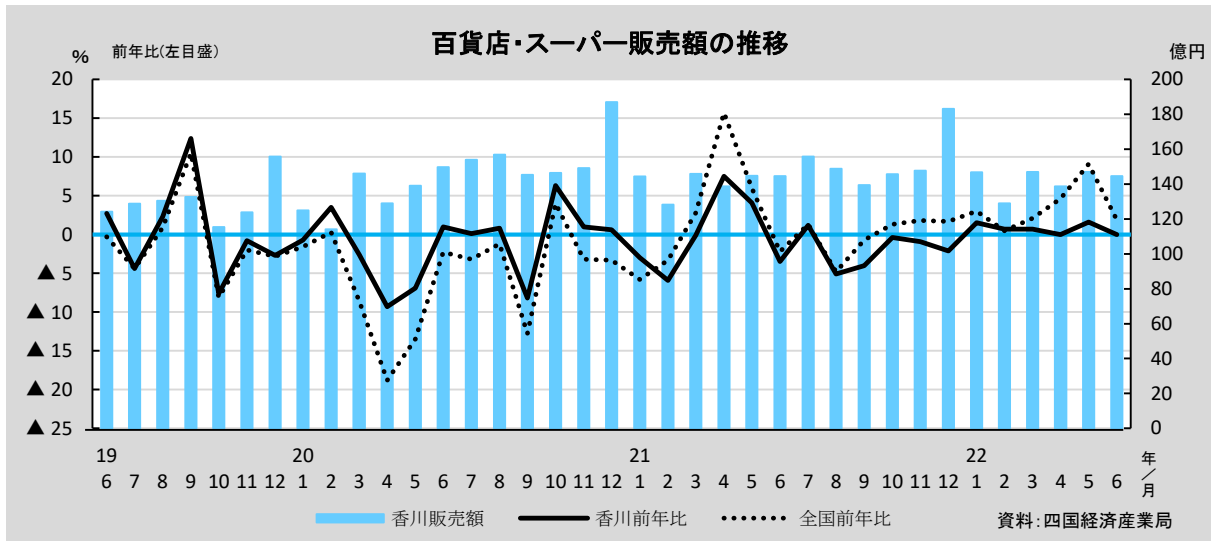
景気の現状を示す一致系列の個別指標では、有効求人倍率、鉱工業生産指数、建築着工床面積などが下降に寄与したことにより、前月から1.3ポイントの下降となった。

先行系列		寄与度	一致系列		寄与度	遅行系列		寄与度
採用 景気 指標	1 新規求人数	▲ 0.16	1 雇用保険受給者実人員	1.07	1 常用雇用指数	0.32		
	2 乗用車新車登録台数	▲ 1.77	2 有効求人倍率	▲ 1.47	2 有効求職者数	▲ 1.57		
	3 鉱工業在庫率指数		3 所定外労働時間指数	▲ 0.01	3 消費者物価指数	▲ 0.27		
	4 生産財生産指数		4 鉱工業生産指数	▲ 0.78	4 家計消費支出	0.74		
	5 新設住宅着工戸数	0.25	5 鉱工業出荷指数	▲ 0.01	5 鉱工業在庫指数			
	6 金融機関貸出残高	▲ 0.49	6 建築着工床面積	▲ 0.33	6 法人事業税調定額	▲ 1.90		
	7 消費者態度指数	0.63	7 百貨店・スーパー既存店販売額	0.29	7 第3次産業活動指数	▲ 0.10		

【注】空欄の数値は未公表のため、現時点で得られる値のみで求めています。

●百貨店・スーパー販売額

6カ月ぶり減少 ↓

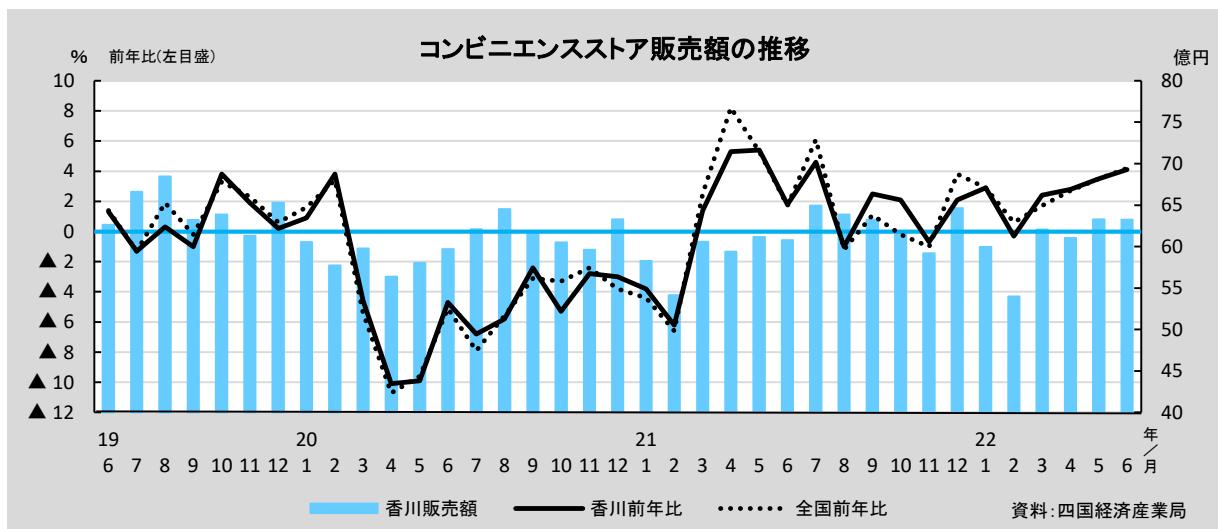


2022/6月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	111,146	66,950	1,053,434	2,433	5,643	25,041	180,098	389	1,445,134
前年同月比(%)	0.7	25.2	▲1.7	23.7	▲7.8	▲2.9	2.4	▲4.4	▲0.0

6月の百貨店・スーパー全店(84店)の販売額は144.5億円で、前年同月比▲0.0%と6カ月ぶりに減少した。「飲食料品」は商品値上げに伴う節約志向もあり前年同月比▲1.7%、「家庭用品」は台所用品の動きが鈍く同▲2.9%と振るわなかった。一方、「身の回り品」はバッグ、靴等に動きがみられ同+25.2%と増加した。

●コンビニエンスストア販売額

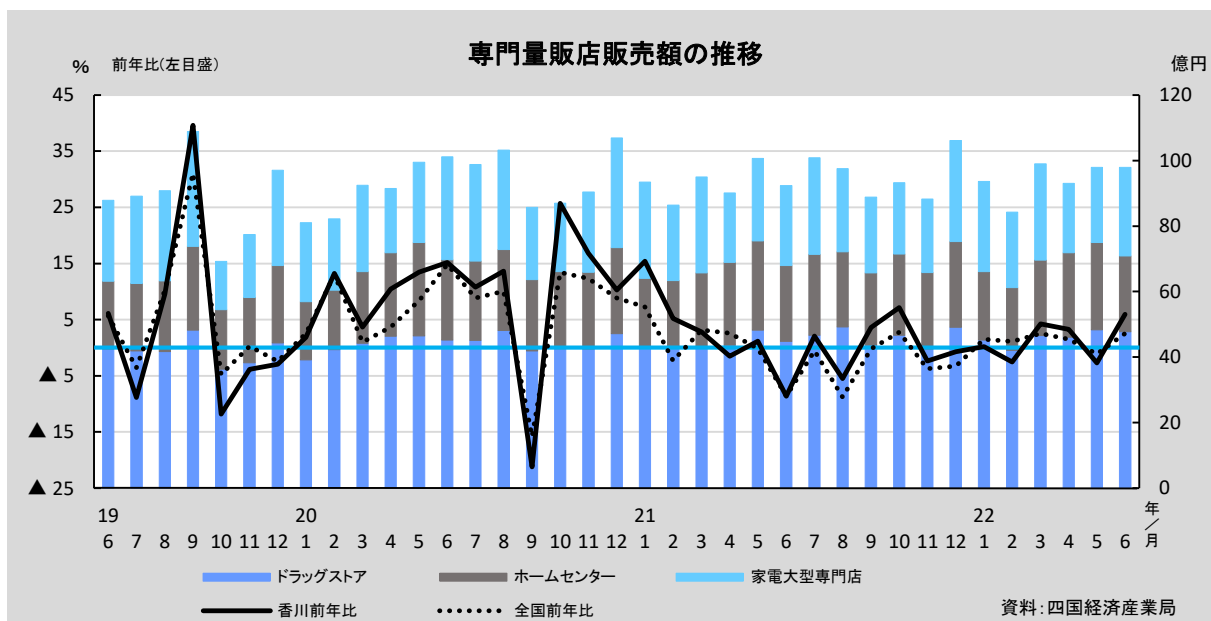
4カ月連続増加 ↑



6月のコンビニエンスストア全店(406店)の販売額は63.2億円で、前年同月比+4.1%となった。外出機会の増加や天候に恵まれたことなどで入店客数が増加し、おにぎり、ソフトドリンクなどの売上が伸び、4カ月連続の増加となった。

● 専門量販店販売額

2 カ月ぶり増加



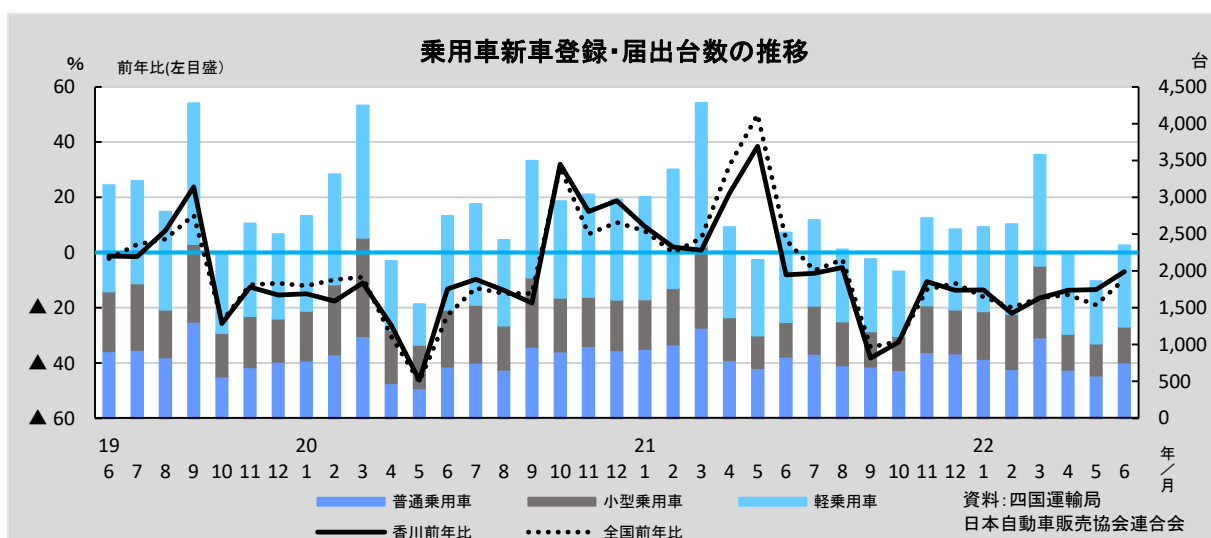
6月の専門量販店全店（209店）の販売額は97.9億円で、前年同月比+6.0%と2カ月ぶりに増加した。

業態別にみると、猛暑でエアコンや冷蔵庫などの需要が大きく伸び、**家電大型専門店**（29店）の販売額は27.0億円で前年同月比+10.5%、**ドラッグストア**（134店）は、冷凍食品や調剤医薬品が堅調に推移し、販売額は47.7億円で同+6.7%となった。

ホームセンター（46店）の販売額は、園芸などが振るわず入店客数が減少し、23.1億円で同▲0.1%となった。

● 乗用車新車販売台数

13 カ月連続減少



6月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は2,349台で、世界的な半導体や部品不足での新車供給遅れが続き、前年同月比▲6.9%と13カ月連続で減少した。

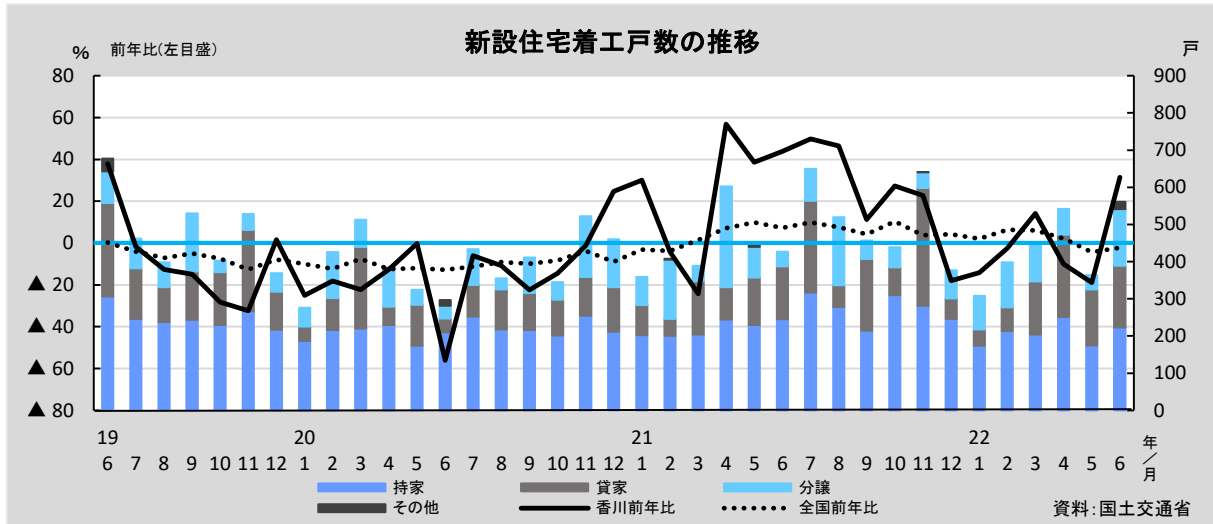
車種別にみると、普通乗用車で前年同月比▲9.7%、小型乗用車で同+4.3%、軽乗用車で同▲9.4%となった。

住宅投資

弱含んでいる

●新設住宅着工

3カ月ぶり増加 ↑



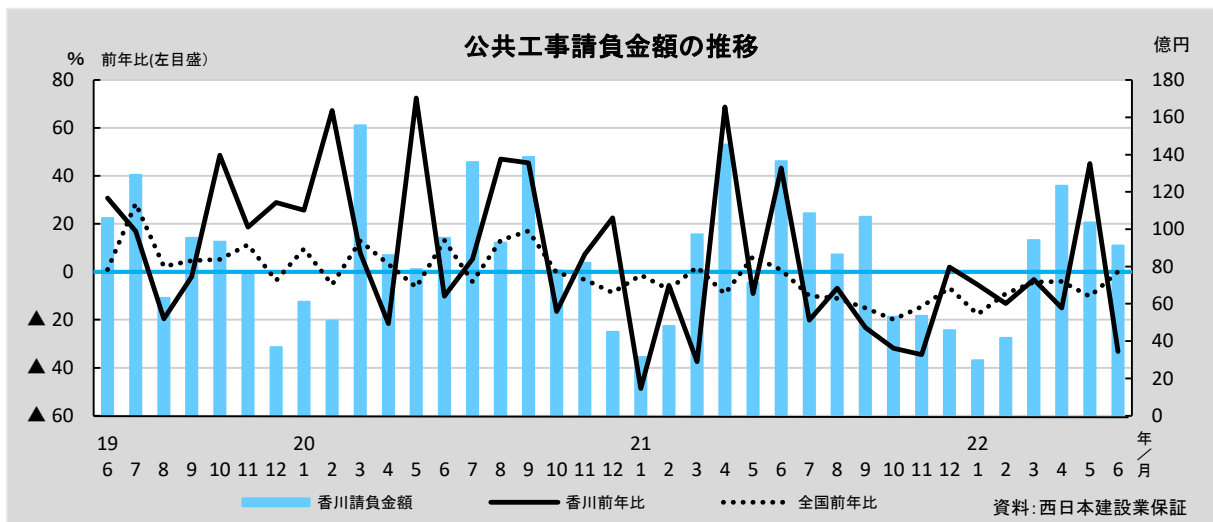
6月の新設住宅着工戸数は561戸で、前年同月比31.4%と3か月ぶりに増加した。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比▲9.0%、**貸家**で同+16.9%、**分譲住宅**で同+280.0%となった。

公共投資

減少している

●公共工事請負金額

2カ月ぶり減少 ↓



6月の公共工事請負金額91.2億円で、前年同月比▲33.2%と2か月ぶりに減少した。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比▲14.3%、**県**で同+13.3%、**市町**で同▲57.8%となった。

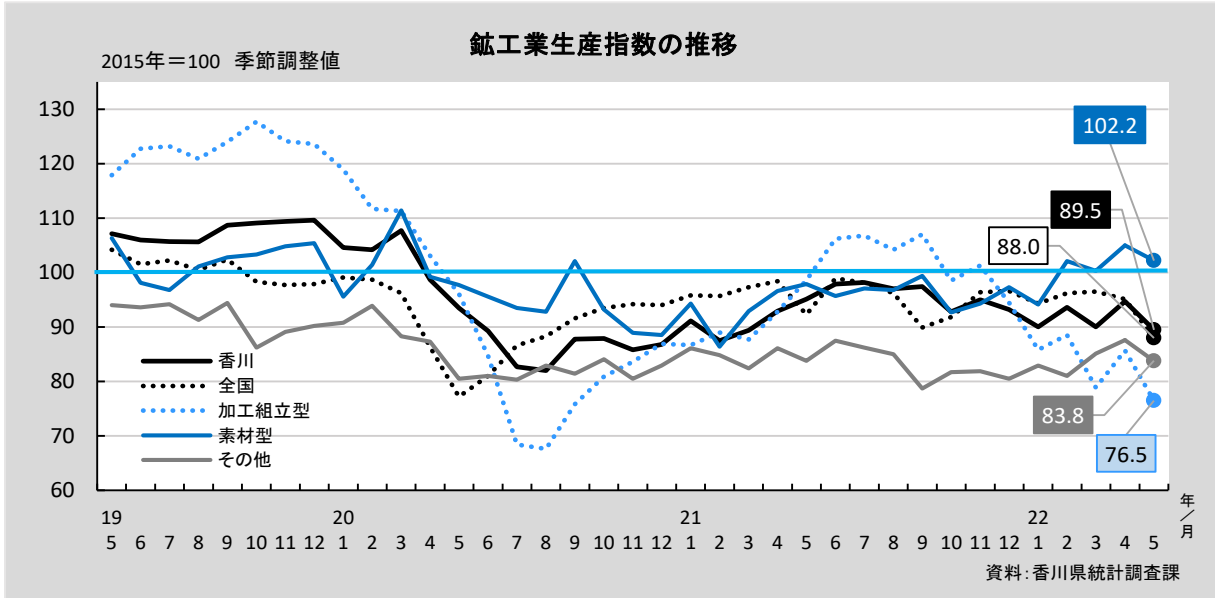
2022.4月～6月の累計では前年同期比9.9%減少している。

生産活動

横ばいで推移している

● 鉱工業生産指数

2 カ月ぶり低下 ↓



5月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は89.5（前月94.7）となり、2カ月ぶりに低下した。

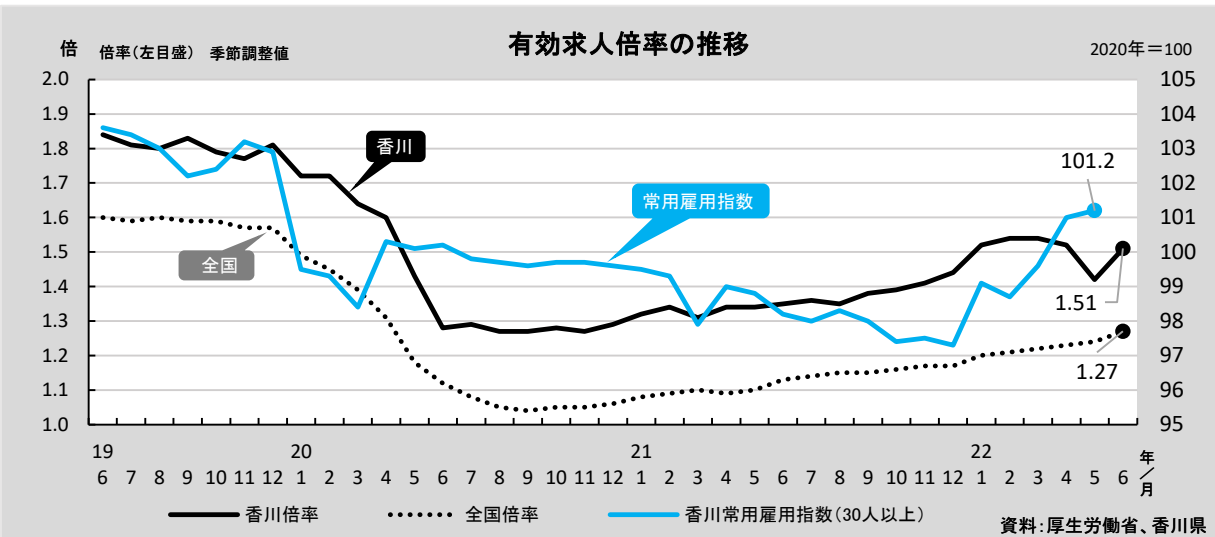
業種別では、素材型の化学・石油石炭製品工業（医薬品など）は前月比+5.6%、素材型の窯業・土石製品工業（特殊炭素製品・生コンクリートなど）は同+3.9%と上昇した。一方、加工組立型の汎用・生産用機械工業（建設用クレーンなど）は同▲33.2%と低下した。

雇用情勢

緩やかに持ち直している

● 有効求人倍率

4 カ月ぶり増加 ↑



6月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.51倍（全国12位）と前月より0.09ポイント上昇した。

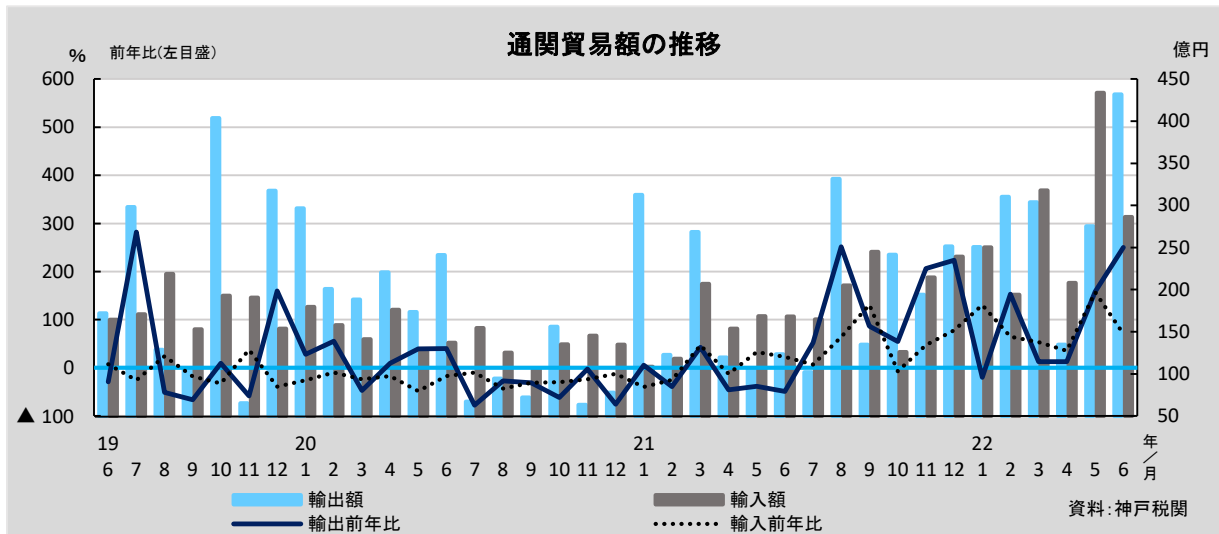
新規求人（原数値：前年同月比）は、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業、金融業・保険業等で増加し、全体で+21.6%と15カ月連続で増加した。

5月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、101.2となり、前年同月比は3カ月連続で増加した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	1.90
事務的職業	0.56
販売の職業	2.23
サービスの職業	3.14
生産工程の職業	2.39
輸送・機械運転の職業	2.00
建設・採掘の職業	6.80
運搬・清掃・包装等の職業	1.07

貿易

輸出、輸入ともに増加している



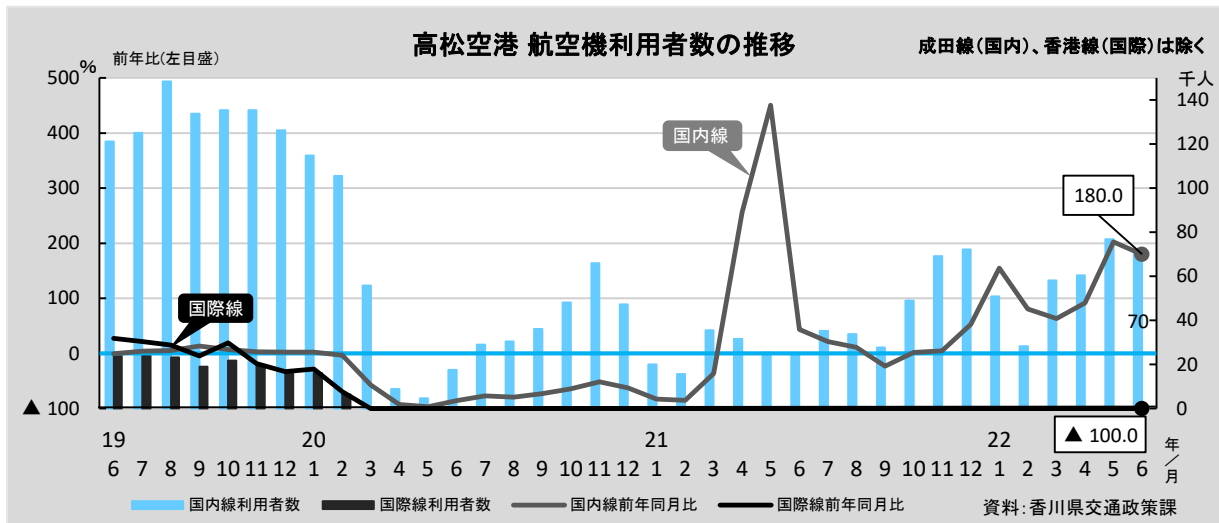
6月の輸出額は前年同月比+250.5%の431.7億円、輸入額は同+70.4%の286.1億円となり、差し引き145.6億円の出超となっている。

輸出は、貨物船輸出額が前年同月比4.8倍の157億円となった。輸入は、前年はゼロだった液化天然ガス輸入額が50億円となった。

交通

国内線は9カ月連続増加、国際線は28カ月連続全面運休

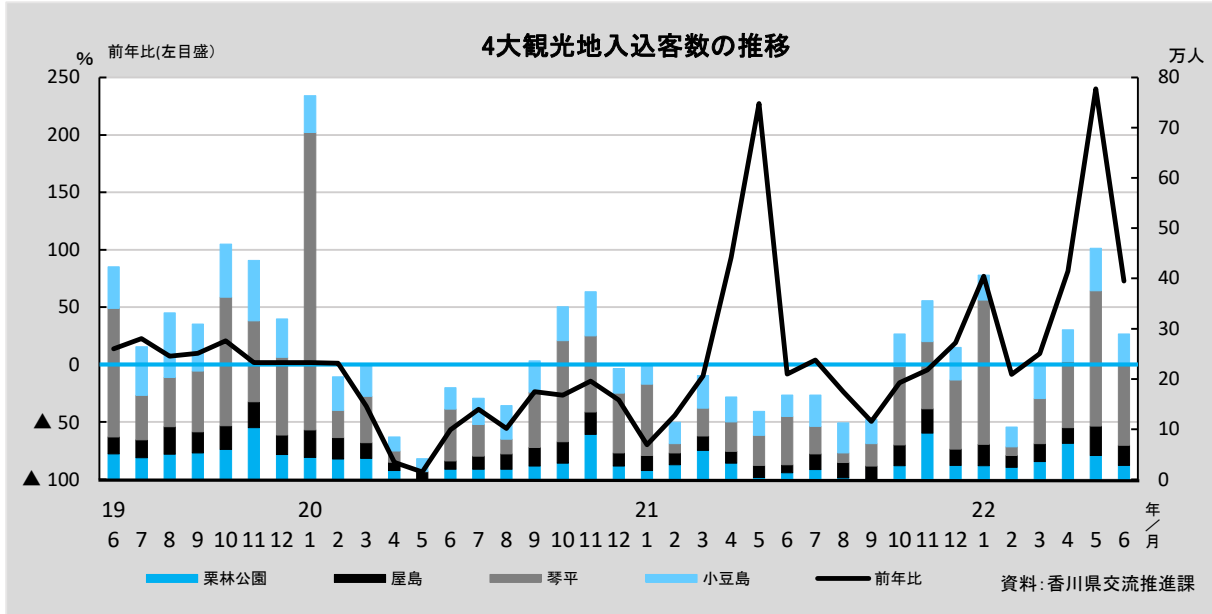
●高松空港旅客輸送実績



6月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が70,347人(前年同月比+180.0%)となり、9カ月連続で増加した。羽田線は67,292人(同+171.9%)、那覇線は3,055人(同+721.2%)となった。コロナ禍前の2019年同月比では▲42.0%となった。

国際線(ソウル・上海・台北線)は新型コロナウイルスの影響により28カ月連続の全面運休となった。

●主要観光地入込客数

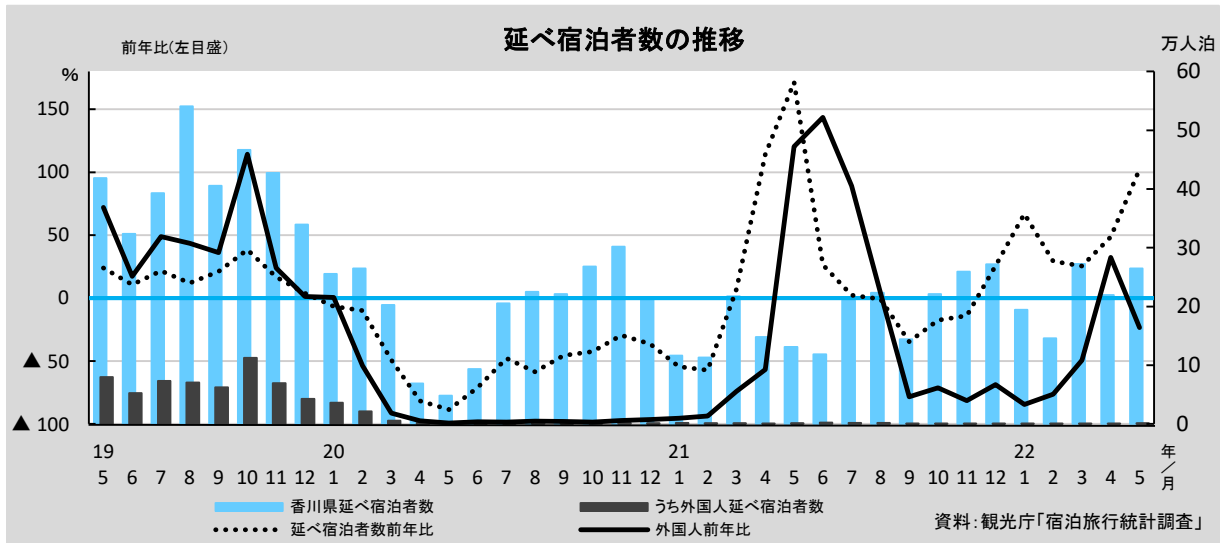


観光地入込客数		栗林公園	屋島	琴平	小豆島	合計
6月(人)	前年同月比	28,003	39,893	162,000	59,669	289,565
1~6月累計(人)		234,368	231,408	957,000	362,170	1,784,946
		109.4%	147.9%	68.8%	41.2%	72.7%
		51.2%	60.2%	122.0%	26.1%	75.4%

6月の主要観光地の入込客数は、前年同月比+72.7%と4カ月連続で増加した。栗林公園は同+109.4%、屋島は同+147.9%となり、4カ所全てがプラスとなった。

1~6月の累計では前年比+75.4%となった。

●延べ宿泊者数



5月の延べ宿泊者数は264,850人で、前年同月比+102.4%と6カ月連続で増加した。コロナ禍前の2019年同月比では▲36.7%となった。

うち、外国人延べ宿泊者数は1,080人となり、前年同月比▲23.4%と2カ月ぶりに減少した。2019年同月比では▲98.6%となった。